

摂食・嚥下メカニズムUPDATE

～出版後の最新の知見を含めて～

講師：キム・コービン・ルイス先生

コーディネーター：熊倉 勇美先生

サブ・コーディネーター：小島 千枝子先生・岡田 澄子先生

逐次
通訳

2008年11月2日(日)～3日(月・祝日) 大阪 朝日生命ホール

2008年11月8日(土)～9日(日) 東京 科学技術館
サイエンスホール

受講料 2日間 ¥21,000



2名様以上でお申し込みの方

お一人様 **¥19,000**

※ 既にお申し込みされている方には、当日会場にて返金致します。

※ 実際の評価と治療の現場をたくさんの
ビデオ画像でみる事が出来ます。

主催 国際治療教育研究所

連絡先：03-3586-3240

実際の評価と治療の現場をたくさんのビデオ画像で見ることができます

摂食・嚥下メカニズムUPDATE

～出版後の最新の知見を含めて～

逐次通訳



講師 キム・コービン-ルイス 先生

ユタ州立大学准教授。学部で嚥下障害、成人の運動性発話障害、発声障害、大学院で言語科学、解剖学、生理学の教鞭をとっている。1996年にウイスコンシン大学で博士号を取得、1980年以降臨床家として活躍し、1985年にカナダ・ニューブランズウィック州の病院に、また1989年に米国ユタ州の病院に、それぞれ嚥下障害サービス科を開設している。その臨床経験は既に28年に及んでいる。ジュリー・リス先生、ケリー・スコーチノ先生との共著である「摂食・嚥下メカニズム—構造・機能からみる新たな臨床への展開」は2005年に出版されたが、翌年、金子芳洋先生によって日本語に翻訳されている。



訳者・アドバイザー
金子 芳洋 先生
明海大学客員教授
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会名誉理事
(前理事長)

訳者推薦の言葉

今回来日されるKim Corbin-Lewis先生らによる著書は、もともと米国の言語聴覚士の卒前・卒後のテキストブックとして書かれたものですが、その内容は通常考えられる教科書という概念からは考えられないほどの広がりや深さと展望を秘めたものなのです。急速に盛んになってきているこの分野の研究・観察・解析機器の進歩から分かりつつあるのは、従来の誤りを訂正し、新しい所見に基づいた新しい発想の導入が必要になってきているということです。

“運動等価 (motor equivalence)” と呼ばれる運動理論導入の必要性は、一項を設けてかなり詳しく解説しているだけでなく、各所にその考え方が織り交ぜられています。多く使われている構造・機能上の各種“指標”で、その定義がはっきりしているのは“喉頭侵入”と“誤嚥”だけであることにも触れています。摂食・嚥下障害患者のVF像をこの領域で経験の深い数名の臨床家に評価させても、評価者間の一致率が極めて悪い。なぜでしょうか？ このように過去を科学的に検証し、現在の進展を多くの文献から注意深く論議し、また将来の展望の一端を示しているのが本書の特徴です。

わが国でも、“マニュアル的臨床”ではなくて、このような“考える臨床”ができる人材が育つことが是非必要なのです。今回のセミナーはそのような“新しい臨床のあり方”を学ぶための絶好のチャンスです。是非ご参加ください。



コーディネーター
熊倉 勇美 先生
川崎医療福祉大学
医療技術学部 教授

お誘いのご挨拶

わが国では摂食・嚥下障害に対する社会的認知、ニーズが高まり、医療機関に限らず、福祉施設や在宅で「安全に飲む、食べる」ためのさまざまなサービスが行われています。言語聴覚士は摂食・嚥下障害のリハビリテーションの最前線で、他の専門職とチームを組み、患者さんの評価・治療に取り組んでいます。分らないこと、根拠が曖昧なことなど、たくさん抱えているのが現状でしょう。

私どもはKim Corbin-Lewis先生他2人の先生たちの著書が翻訳出版された時に、一読し、上記のテーマに対する答えを提示し、さらに臨床の新しい方向性をも指し示していることに、強い興味と関心を持ってきました。シリーズ編集責任者のRosenbek先生が「彼女らは、治療決定の根拠を生理学的ならびに病態生理学的原則に求めてきた」と書いていますが、これは彼女らの考え方の重要なポイントのひとつであろうと思います。

彼女らから、直にお話伺える機会があればと願っていましたが、今回、それが実現します。ぜひこの機会にアメリカのトップクラスの臨床家であり研究者であるKim Corbin-Lewis先生のセミナーにご参加下さい。

コーディネーター
熊倉 勇美 先生

サブ・コーディネーター
小島千枝子 先生
聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 教授

サブ・コーディネーター
岡田 澄子 先生
藤田保健衛生大学 衛生学部 准教授

2008年11月2日(日)・3日(月)

大阪 朝日生命ホール

大阪府大阪市中央区高麗橋4-2-16

●地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅南側12番出口徒歩2分

2008年11月8日(土)・9日(日)

東京 科学技術館 サイエンスホール

東京都千代田区北の丸公園2-1

●東京メトロ東西線「竹橋」駅下車出口1b徒歩約7分

●都営地下鉄新宿線／東京メトロ半蔵門線／東西線「九段下」駅下車出口2徒歩約7分

内容充実のレジメ

医療に詳しい通訳者

受講料 2日間

¥21,000

主催
後援
(申請中)



国際治療教育研究所

第128回

国治研セミナー

日本語聴覚士協会／日本療養病床協会／日本訪問看護振興財団／日本作業療法士協会／日本介護福祉士会／東京都看護協会／日本歯科衛生士会／東京都歯科衛生士会／日本老年歯科医学会／日本栄養士会／日本理学療法士協会／日本歯科医師会／東京都歯科医師会／社団法人大阪府看護協会／日本ホスピス緩和ケア協会／大阪府歯科衛生士会／大阪府歯科医師会／ユタ州立大学附属病院／医歯薬出版株式会社 (順不同)

プログラム

1日目 臨床評価

- 9:00 受付
- 9:45 ご挨拶と講師紹介
- 10:00 成人の摂食・嚥下障害—正常嚥下各期の概説
- 10:15 評価方法—ベッドサイド
 - 感覚系
 - 呼吸と嚥下の協調
- 11:00 休憩
- 11:15 評価方法—機器による場合 (MBS, FEES)
 - 食道の機能
- 12:30 昼食休憩
- 13:30 最新の臨床評価
 - MBS (日本では嚥下造影検査-VF):
 - 普段食べている状況とVFの読像結果の関連性を如何に改善するか (食品のテクスチャー; 食感; 臨床的に適切なX線造影剤)
 - FEES (日本では嚥下内視鏡検査-VE): 長所と限界
- 15:00 休憩
- 15:15 評価所見に対する加齢の影響を如何に判断するか—何が正常か
- 16:00 臨床評価のまとめと将来の臨床研究に必要なこと
 - 討議と質疑応答等
- 17:30 閉会

2日目 成人の摂食・嚥下障害に対するEBT*

- 9:00 受付
- 9:30 EBMの重要性
- 9:45 神経(原)性摂食・嚥下障害の治療
- 10:45 休憩
- 11:00 構造的病因による摂食・嚥下障害の治療
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 最新の治療
 - 治療の遵守と患者の主張の問題
 - 文化的側面を考慮したリコメンド
 - QOLの問題
- 14:15 休憩
- 14:30 現在使用されている治療方法の根拠
 - シャキア法 ● 冷圧刺激
 - 姿勢の調整
 - 食品のテクスチャーを変える
- 15:30 米国で現在使用されている最善の方法の要約
 - EBTの将来的方向
 - 討議と質疑応答等
- 17:30 閉会

(※根拠に基づいた治療)

◎プログラムは変更されることもございますのでご了承下さい。

お申し込みの前に必ずお読みください。

- 申込方法: ホームページの申込書か本紙申込書にご記入の上、FAXでお申し込み下さい。
- 聴講料: 1名2日 ¥21,000 (修了証含¥21,500)
- 振込み期限: お申込み後10日以内に銀行振込みにてご送金ください。定員になり次第締め切らせていただきます。
締切り間近の残席状況はホームページでご覧になれます。
ご確認の上、お問い合わせ下さい。
聴講券はお申込書とご入金を確認後、後日郵送させていただきます。
- キャンセル: 1. セミナー6日前までにキャンセルされた場合は、振込み手数料、聴講券送付代などの実費を引いて返金いたします。
2. セミナー5日前から前日までにキャンセルされた場合は、上記1の金額とキャンセル事務手数料として3,000円を頂戴いたします。
3. セミナー当日のキャンセルに関しましては、全額を頂戴いたします。
但し、その場合は後日レジメを送付させていただきます。
4. 天災、地変、不慮の事故など、不可抗力により開催されない場合、返金はご容赦下さい。

お振込み先

みずほ銀行赤坂支店
普通口座:8051836
株式会社
名義:国際治療教育研究所
「修了証」をご希望の方は
¥21,500お振込み下さい。



※お振込みの際にはお申し込み者のお名前を必ずご記名下さい。

第128回 国治研セミナー 受講申込書

フリガナ				住所 (自宅・勤務先) ※聴講券送付先をご記入ください。		
お名前			男 女	〒	—	
TEL	FAX				修了証の発行(手数料500円) <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	大阪会場・東京会場 (いずれかに○印)
ご職業			所属先			●送金は 月 日に 銀行から振込を予定
携帯			E-mail			送金予定額: ¥ 他名義 ()
今回のセミナーを何でお知りになりましたか? <input type="checkbox"/> DM(チラシ) <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 知人の紹介 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他 ()						